

事業計画書

2017



公益社団法人 日本キャンプ協会

2017 年度
公益社団法人日本キャンプ協会 事業計画

2017 年度公益社団法人日本キャンプ協会 基本方針	1
キャンプの活動を発展させ、広めていく事業	2
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業	7
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業	9
法人事務	10
付 録 (ビジョン 2020)	12

公益社団法人 日本キャンプ協会
2017年度 基本方針

昨秋、東京で開催した「アジア・オセアニア・キャンプ大会」のメインテーマは「アウトリーチ ― 手をさしのべるキャンプ」というものでした。このテーマは一過性のものではなく、今後も私たちの大切な指針とすべきものです。それは、設立 50 周年式典において発表された日本キャンプ協会の将来ビジョンの主調にも「アウトリーチ ― 社会の隅々までキャンプを届けよう」と謳われています。

キャンプは自然環境の中で活動することを通して、他者と共に楽しみや喜びを、時には悲しみや慰めをも共有することの出来る素晴らしい活動です。従って、このキャンプの良さを社会の隅々まで届けるために今年度も各種の事業を行い、課題解決の努力を積み重ねていかねばなりません。

この年度は日本キャンプ協会の将来計画「ビジョン 2020」に示された各アクションを具体化するプロジェクトの立ち上げ、ビジョンを反映したモデルプランの企画・実施にとりかかる年度となります。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業ではキャンプインフォメーションセンターの機能の充実・強化を図り、キャンプの企画・運営受託等を積極的に受け入れ、キャンプを享受する層の拡大を目指し、キャンプの楽しさを社会に向けて発信することに力を注ぎます。

より良いキャンプを実現する指導者養成の事業では「キャンプと人々をつなぐ」案内人（ガイド）としての役割を自覚した人材の養成を目指します。そのため、指導者養成カリキュラムや課程認定団体規程の見直しなどに着手すること、地域の特性に応じたキャンプ知識や技術の伝承については地域の事情に合わせたカスタマイズを可能にする制度化等に取り組んでいきます。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業では「キャンプ研究」の発刊や「キャンプミーティング」の継続を行いながら、その内容についてはより実践的な報告やワークショップを増やししながら、ここでもキャンプの楽しさ、素晴らしさを多くの一般の方々に分かりやすく発信することに意を用いたいと考えます。

一方、キャンプに備わっている「つながる力・立ち向かう力」によって社会的課題となっているスペシヤル・ニーズのための諸活動も必要なこととして取り組みを継続します。

公益社団法人としての日本キャンプ協会は半世紀の歩みを終え、次の新しいステップへ向かって既に歩を踏み出しました。

日本キャンプ協会は「ビジョン 2020」に示されたように、自らの意識改革を進め、自主・自立から成熟に向かって、全国の都道府県キャンプ協会と堅固な連携を保ちながらこの年度を拓いて行くことを 2017 年度の基本方針とします。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

キャンプの魅力は「楽しさ」や「新しい出会い」だけでなく「つながる力」や「立ち向かう力」といった、人と人が触れ合うことによって生じる感情や感覚を共感出来るというところにもあります。

他人に対する優しさやいたわりの感情が希薄になったと言われる今日、人と力を合わせる喜びを知ったり、受容されている自分自身に気付いたりすることによって、自他の関係を再確認することはキャンプを通して得られる貴重な体験と言えるでしょう。

日本キャンプ協会では昨年、設立 50 周年を機に、キャンプに備わった力が社会の中で方々に広がり、キャンプの魅力を感じていくことを願って「社会の隅々までキャンプを届けよう」という将来計画「ビジョン 2020」を策定しました。

この年度は「ビジョン 2020」の開始の年として、その思いを具体的な形にし、キャンプの普及振興につなげていきたいと考えます。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB サイトやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努める。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に対応するとともに、キャンプ実施などに対する支援を行う。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義やキャンプの実施に係わる技術、各地で展開されているキャンプの情報など、多様なことがらを全国の指導者会員のみならず、広く一般の人々にも伝えるために会報誌「CAMPING」を年 6 回発行する。

NO.	176	177	178	179	180	181
発行日	4 月 15 日	6 月 15 日	8 月 15 日	10 月 15 日	12 月 15 日	2 月 15 日

発行部数：約 12,000 部

(2) WEB サイト及び公式 Facebook ページの運用

幅広く多様な情報のやりとりが可能なインターネットを活用し、タイムリーで有益な情報発信を行う。

- WEB サイトでは日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供するほか、イベントカレンダーなどで都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介も行う。

URL : <http://www.camping.or.jp>

- Facebook では、日本キャンプ協会と社会をつなぐ窓口として、公式 WEB サイトと連動した情報提供に加え、事業の様子なども交えたよりきめ細かな情報を発信していく。また、併せて Facebook 上で会員交流のための「会員のひろば」グループを開設する。

URL : <https://www.facebook.com/ncaj.sns>

(3) メールマガジンの配信

イベントや研修会の開催等についての情報や、助成金、人材募集などの情報を掲載したメールマガジン「CAMPING News」を発行する。

発行回数：年間12回（毎月更新）

送信件数：約2,500件

(4) キャンプインフォメーションセンター

広く一般に向けた情報提供を行う目的で、キャンプインフォメーションセンターを運営する。キャンプに関する企画・運営相談に応じるほか、機能の充実・強化を図り、キャンプの企画・運営受託、講師派遣等を積極的に受け入れ、キャンプを享受する層の拡大を目指し、キャンプの楽しさを社会に向けて発信することに力を注ぐ。これにより、キャンプの普及を図るとともに、キャンプ指導者の活躍の場が広がることも期待される。

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

朝霧野外活動センターは、静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設として、静岡県内外の様々な社会教育団体及び学校団体が実施する様々な研修活動を支援し、野外活動の拠点施設としての機能を十分に果たしてきた。また、日本キャンプ協会にとってのキャンプの実践の場としても、子どもを対象とした長期の組織キャンプを中心に、様々な人々を対象とした事業を年間を通して実施し、キャンプ及び自然体験活動の普及に努めてきた。

日本キャンプ協会が朝霧野外活動センターの管理運営に参画して11年目となるこの年度は、引き続き、主催事業や利用団体の受け入れ事業を通じて多くの人々に対してキャンプ及び自然体験活動の機会を提供し、その活動を支援することで、キャンプ及び自然体験活動の普及に努める。

(1) 自然体験活動事業（自主事業）の実施

この年度から、地図とコンパスを使って行う野外活動であるナビゲーションスポーツとテント泊や野外炊事等を含むキャンプを組み合わせた新しい事業「ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧(NSCA)」を実施する。キャンプの普及を図る新たな対象として、ナビゲーションスポーツの活動者や競技者がキャンプのスキルを身につけ、その魅力を知ることができる機会を提供する。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう 富士山～	7月2日	小学校5年～ 中学校3年生	事前研修
	8月6日～14日		本研修

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	備考
野外活動プログラム実習	4月21日～22日 11月10日～11日	利用団体の担当者および指導者	

長期キャンプ 指導者養成講習会	6月17日～18日	専門学校生 短大生 大学生	全4回参加が必要 8月6日～14日は 朝霧高原サマーキャンプと 並行開催
	7月8日～9日		
	8月6日～14日		
	10月14日～15日		
野外教育指導者養成講習会	2018年2月10日～12日	野外教育に興味のある人 青少年団体の指導者 教育関係者	

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
ちょっといい春感じませんか	4月29日～30日	家族・小グループ	
ナビゲーションスポーツ・ キャンプ in 朝霧	9月9日～10日	家族・小グループ	新規プログラム
すてきな秋をあなたに	9月30日～10月1日	家族・小グループ	
オリエンテーリング in 朝霧	11月25日～26日	家族・小グループ	
スケートキャンプ	12月15日～16日	家族・小グループ	
	2018年1月12日～13日		
	2018年2月16日～17日		
	2018年3月2日～3日		
223(ふじさん)ウォーキング	2018年2月25日	家族・小グループ	静岡県富士山の日
プラネタリウムと星空探訪	2018年3月9日～10日	家族・小グループ	
スケートフェスティバル in あさぎり	11月5日 2018年3月4日	家族・小グループ	

施設開放事業

事業名	日程	対象	備考
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	①13:00～14:30 ②15:00～16:15
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	①13:00～15:00 ②15:30～17:30
朝霧カーニバル	11月5日	どなたでも	
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小学校 (5校)に通う児童とそ の家族	15:30～17:00

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	備考
ホッとキャンプ	2018年2月13日～15日 2018年3月6日～8日	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対象	備考
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者	インターネットによる啓発 を中心に実施する

(2)受け入れ事業の支援

朝霧野外活動センターを利用する社会教育団体及び学校団体に対して、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含めて、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かい支援をする。各活動の運営方法、計画の立て方、実地踏査の行い方、安全管理と危機管理の方法及び実際のプログラム運営の支援等、研修の実施にあたって必要となる事柄について、個別に対応し、利用団体の実施する研修活動がより効果的なものとなるようにサポートする。

(3)プログラム開発

- 1) 地図とコンパスを頼りにポイントを回りつつ、それぞれのポイントで朝霧高原の自然、産業、人々の暮らし等について学ぶことができるハイキングプログラムを作成する。
- 2) 富士山及び朝霧高原地域の動植物等について紹介するスライドを作成して、ハイキング等の活動と組み合わせて利用することで、研修生が自然についてより深く理解できるようにする。
- 3) 既存のプログラムは、自然体験活動として新鮮さを失わずにより高い効果が期待できるよう、利用頻度の高いウォークラリーを中心に活動内容の見直しを行う。

(4)地域との協働

- 1) これまでに、隣接する富士丘地区をはじめ近隣地域と深めてきた信頼関係のもと、近隣地域の住民が進めている朝霧高原地域の景観整備等の取り組みにも参画する。
- 2) 地域の住民や周辺施設の職員等を招いて地域懇談会を開催し、朝霧野外活動センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に生かす。
- 3) 国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力して、朝霧野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日程で開催する。この事業は、地域住民、地域の施設、県内外の青少年教育施設及び社会教育団体等の参加を得て、朝霧高原地域のイベントとして実施できるようにする。

3. 都道府県キャンプ協会の活動の支援

都道府県キャンプ協会が中心になって行う広域的もしくは公益性の高い事業に対して資金的、人的なサポートを行ったり、キャンプ指導者、キャンプ愛好者が身近な地域の情報を得ることができるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を行う。

- ・全国レベルまたは地域密着型の啓発的活動に対するサポート
- ・会報同封サービス(会報誌等を CAMPING に同封して会員に安価に送付するサービス)の提供
※キャンプディレクター2級養成講習会開催要項同封サービスの提供(詳しくは7ページ、1の(2)参照)
- ・WEB サイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供
- ・各種情報の提供

4. 出会いと体験の森へ第7期(他団体と共同で行う事業)

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して、キャンプのよさを広く伝えたり、指導者の養成につながる事業を行う。(今年度は日本YMCA同盟が幹事団体として共同事業を行う)

5. 国外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員をはじめ広く一般に提供する。

また、国外から得られた情報のうち会員等にとって有用と思われるものについては、抄訳を作成するなどして、積極的に共有を図る。

(1) 国外情報の日本語による提供

国外の有用な情報の日本語抄訳を作成し、WEB サイトやCAMPING 誌面などを通じて紹介する。

(2) 国際キャンプ連盟(ICF)、アジア・オセアニア・キャンプ連盟(AOCF)、アメリカキャンプ協会(ACA)等の情報提供をする。

・アメリカキャンプ協会年次総会

日 時：2018年2月

開催地：未定

・第11回国際キャンプ会議(ICC2017)

日 時：2017年10月15日(日)～19日(木)

開催地：ロシア・ソチ(スキーリゾート ローザ・クトール)

メインテーマ：世界中の子どもたちと幸せを分かち会おう

6. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするためには、一人ひとりが安全意識を高めることが求められる。そこで、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心とする7月・8月に安全啓発キャンペーンを実施する。また、昨年作成した「キャンプ安全いろはかるた」をWEB サイト上に公開し、多くの人々が「かるた」を楽しみながら、野外における安全について意識出来るように普及を図る。

・キャンペーン期間：2017年7月1日(土)～8月31日(木)

・キャンプ安全の日：2017年7月16日(日) ※7月第3日曜日

・「キャンプ安全いろはかるた」ダウンロード

URL:<http://www.camping.or.jp/2017/01/post-1567.html>

7. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

都道府県キャンプ協会が行う各種事業に使用するテントやタープは経年劣化により定期的な更新が必要となる。より多くの人々を対象としたキャンプの普及事業が安定的に実施出来るよう、助成金を受けて、キャンプや講習会等で活用できるテント等のキャンプ用品、用具の配備を行う。

※一般財団法人日本宝くじ協会に助成金を申請(2016年10月に申請済み)

8. 研修・普及に関する事業改良の検討

社会が抱える問題に向き合い、キャンプを手段として課題解決の糸口を探る作業には終わりが無い。キャンプの内包する「つながる力」「たのしむ力」「たちむかう力」を有効に引き出し、社会的課題に向

き合うキャンプを行うことは大切な活動の一つであり、必要に応じて工夫された様々な形のキャンプは次の世代への貴重な財産となる。

このようなキャンプの実施やキャンプに関わる人々の研修について、新しい見解や知見を取り入れつつ常に状況に対応できる人材の発掘と養成を行うために、委員会を設け、研修及び普及事業のあり方を検討する。

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

キャンプ指導者の役割はキャンプの楽しさや有用性を人々に伝え、その結果多くの人々によってキャンプが行われるように導くことです。

従って、キャンプ指導者は「キャンプと人々をつなぐ」案内人（ガイド）として、キャンプに備わっている特性を理解し、キャンプを伝えることができる人でなくてはなりません。

人々の心身の発達に寄与することのできるキャンプの指導者養成は、本協会発足以来の大切な事業として継続されてきましたが、この年度は特に「キャンプ」と「人」をつなぐ役割を意識した指導者養成を心がけて進めていきたいと思えます。

また、指導者養成制度の改訂作業についてはキャンプディレクター養成テキストの改訂とともに、キャンプディレクター2級養成講習会のおてびき作成、課程認定団体規程の改訂を行って幅広い指導者養成への門戸を開いていくことを予定しています。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成

初級資格であるキャンプインストラクターの養成は、課程認定団体主催で実施する。

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

中級資格であるキャンプディレクター2級の養成は、都道府県キャンプ協会および事前に実施承認を得た課程認定団体主催で実施する。

※キャンプディレクター2級養成講習会の開催要項について、無料で同封サービスを利用することができる。ただし、配布対象地域は同一ブロック内とする。なお、同封サービスを利用する場合、日本キャンプ協会の輪転機による白黒印刷で構わなければ印刷作業も行う。(PDFによる完全原稿を用意のこと)

(3) キャンプディレクター1級養成講習会

上級資格であるキャンプディレクター1級の養成講習会は、日本キャンプ協会主催で実施する。

日 程：2017年11月23日(木)～25日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

(4) キャンプディレクター1級検定会

キャンプディレクター1級の検定会は、日本キャンプ協会主催、2会場で実施する。

東日本会場

日程：2018年1月20日(土)～21日(日)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

西日本会場

日程：2018年2月頃

会場：未定

2. キャンプ指導者の審査・認定

(1) キャンプインストラクター新規資格申請者の審査・認定	目標 2,500人
(2) キャンプディレクター2級申請者の審査・認定	目標 70人
(3) キャンプディレクター1級申請者の審査・認定	目標 30人
(4) 指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新	目標 7,600人
(5) 課程認定団体の審査・認定 新規課程認定団	目標 5団体

3. 課程認定団体向け研修会

課程認定団体の指導者養成担当者を対象に、カリキュラムに則った養成が行えるよう研修を行う。

日程：2017年4月29日(土)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

4. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用として「キャンプ指導者入門」、キャンプディレクター養成用として「キャンプディレクター必携（改訂版）」の2種類のテキストを発行する。

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の会務を担当する指導者が集まり、それぞれの協会の状況等を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行う。

日程：第1回 2017年6月11日(日)

第2回 2017年10月28日(土)～29日(日)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

6. 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプ指導者が新しい知識や技能を身につけたり、指導者同士が顔の見える関係をつくったりすることを目的に実施する BUC(Brush Up & communication)事業を承認し、支援する。

*所定の期間に BUC 事業に参加し、手続きを完了した会員に対しては、次年度の資格更新料を免除する。

7. 公認資格取得機会拡大につながる取り組み（課程認定団体規程の改訂）

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、課程認定団体のあり方を検討し、課程認定団体規程を改訂し、課程認定団体の増加に向けた取り組みを進める。

8. 指導者養成制度改良に向けた検討

現行の指導者養成カリキュラムは2006年に運用開始となり、10年を迎える。この間、キャンプを取り巻く社会情勢にもさまざまな変化があり、キャンプディレクター2級養成を課程認定団体主催で行えるようにするなど、制度上の変更もあった。

こうした変化に対応するため、委員会を設けて指導者養成制度改訂の作業を行ってきたが、キャンプディレクター養成テキスト『キャンプディレクター必携』の改訂とともに、キャンプディレクター2級養成講習会のびき作成が完了したので、この年度から運用を開始する。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの普及を進めるためには、キャンプそのものや指導者の質を高めることが求められます。そのためには、指導者自身が新たな実践について知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることが大切なこととなります。

従って、国内外のキャンプに関連する実践、新たな知見の蓄積や整理をするとともに、わかりやすく社会に提供することや、参加者同士が情報を持ち寄って学びあったり、各自が提案しながら新しい学びの機会を創出できる場を提供することは重要なことです。

また、キャンプというフィールドに限らず、この年度は「アウトリーチ」を意識しつつ異業種の個人や団体との協働によって新しい分野への挑戦に踏み出したいと思います。

1. Camp Meeting in Japan 2017の開催 ～第21回日本キャンプミーティング～

様々な地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が、日頃の実践の成果を発表し、参加者間の情報交換や情報共有ができる機会を提供する。

講演、ポスター発表、ワークショップ等の場を設定し、一般のキャンプ愛好者や市民にも聴衆として参加してもらえる会として、またつながりを深めることを意図した構成としたい。

日 程：2017年6月10日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

2. 定期刊行物『キャンプ研究』

会員の研修機会のひとつとして、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、キャンプに関する研究論文、実践報告等を掲載した『キャンプ研究第21巻』を発行する。

キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、広く読まれるよう配慮する。

発 行 日：2018年2月15日(木)

発行部数：3,000部

3. Café de CAMP（カフェ・デ・キャンプ）の開催

キャンプに興味がある人、これからキャンプをやってみたいと思っている人などが集まり、講師を囲

んで意見交換をしたり、相互に事例発表を行ったり、実践的なプログラムを体験したりする、キャンプでつながり、学びあう場を設ける。

内容については参加者の意見を取り入れるとともに、キャンプ以外の団体ともコラボレーションし、日本キャンプ協会にとって新しいテーマも積極的に取り上げることとする。

日 程：年間5回

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）ほか

4. Special Needs Camp に関する調査研究とその周知に関する事業

Special Needs Camp（スペシャル・ニーズ・キャンプ）とは、特別な配慮を必要とする人々のキャンプであり、大切な人を亡くしたキャンパーを対象とするグリーフキャンプや障がい児(者)キャンプ、病児キャンプ、引きこもりがちな青年たちのキャンプなどを指す。キャンプを通じた社会貢献を考えた場合、Special Needs Camp は欠くことのできないテーマの一つである。2016年10月に結成された SNCN（スペシャル・ニーズ・キャンプ・ネットワーク）の活動を支援しつつ、子どもの支援活動を行う他団体等との連携によるキャンプの実施を模索する。

(1) Special Needs Camp に関連する情報収集とネットワーク

SNCN の事務局機能をボランティアに果たしながら Special Needs Camp を行ううえで必要と思われることがらについて情報を収集し、整理する。また、こうした情報を共有し、SNCN の輪を広げていく。

法人事務

日本キャンプ協会の適正規模を模索するとともに運営の効率化を図りながら、健全な財務管理に努めます。

また、新たな支援者層の獲得を目指して、その方策を検討するとともに、キャンプの最先端である都道府県キャンプ協会と協働して、キャンプの普及振興のための事業が各地で円滑に行えるよう効果的な方策を進めていきます。

1. 諸会議の開催

(1) 総 会：2017年6月10日(土)

(2) 理事会：2017年5月20日(土) / 2018年3月10日(土)

(3) 執行理事会 随時（年7回程度）

(4) 運営委員会／タスクチーム・ミーティング等

名 称	概 要
CAMPING 編集タスクチーム	CAMPING の企画編集
朝霧運営タスクチーム	静岡県立朝霧野外活動センター運営
Camp Meeting タスクチーム	Camp Meeting in Japan の企画・運営

キャンプ研究編集タスクチーム	キャンプ研究の企画・編集
指導者養成委員会	指導者養成制度の検討および養成講習会等の企画運営
地域連携委員会	都道府県キャンプ協会へのサポート、ブロックでの取り組み等を検討
ビジョン 2020 委員会	将来計画の具体化・評価
総務委員会	事業計画・予算の執行状況のチェック 事業計画外事業等の協議、決済、承認

他団体と共同で行う事業に関するもの

名称	概要
出会いと体験の森へ実行委員会	関連 5 団体で実施する「人を育てるキャンプ」に関連する事業の企画運営
中央青少年団体連絡協議会世話人会	研修会・懇談会・新年五礼会など 東京五輪国際青少年キャンプ（仮称）の検討

(5) ブロック会議 都道府県キャンプ協会指導者研修会内及び各ブロックによる実施

2. 都道府県キャンプ協会の活動に対する支援

都道府県キャンプ協会は、日本キャンプ協会と密接な協力関係にある、キャンプの普及・振興の中心的存在である。有用な情報の提供を図るため、マンスリーレポートの発行や広報活動のサポートなどを通じて、その活動を支援するとともに情報の共有に努める。

(1) 都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催

(2) 都道府県キャンプ協会の行う諸事業の支援

3. 日常法人事務

昨年度見直しを行った会員管理システム及び会計管理システムのクラウド化により、さらなる業務の効率化を図り、経営の健全化に努める。また、事務局内のリース物件等を見直すとともに、文書管理を徹底し、情報の共有化と効果的な活用を促進し、業務効率の向上、文書管理の標準化に努める。

(1) 会員情報管理

(2) 会費等徴収

(3) 事業方針・計画・予算の管理

(4) 日常経理業務

(5) 事業運営管理

(6) 助成金事務

(7) 人事管理・職員の研修

(8) 渉外事務

(9) 庶務

付 録

公益社団法人 日本キャンプ協会 ビジョン 2020

社会の隅々までキャンプを届けよう

1966年、日本のキャンプ指導者、教育者、研究者たちが集い、様々な年代や職業、障がいの有無等を超えて、日本全国の人々に Camping for All の思いを伝えようと日本キャンプ協会はスタートしました。

50年前に蒔かれた小さな種は多くの先人の力によって導かれ、今日では全国46の都道府県キャンプ協会や150を上回る団体が加盟する国内唯一のキャンプに関する専門的な公益法人へと成長してきました。

協会設立以来、50年の間にキャンプに関する様々な取り組みがなされてきましたが、いつもそのルーツにあるものは Camping for All の思いであり、キャンプをより多くの人々に知ってもらいたい、体験してもらいたいという願いです。

ビジョン策定委員会は、設立50周年という節目の年を迎え、“わたしたち”日本キャンプ協会に関わるすべての人々が使命達成のために次の一步を踏み出すべき方向を確認し共有するために「ビジョン2020」を答申します。

この答申の基本的な考え方は以下の3点です

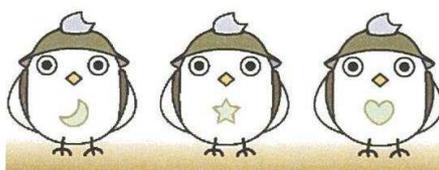
これまでも・これから「わたしたちの思い（想い）」は『Camping for ALL』
～キャンプをより多くの人々に知ってもらい、体験してもらいたい～

「わたしたちの使命」は（協会定款第3条）
「野外活動としてのキャンプの普及と振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与する」ことです。

現代社会の中でわたしたちに求められている役割は
「キャンプと人々をつなぐ」案内人（ガイド）だと思っています。

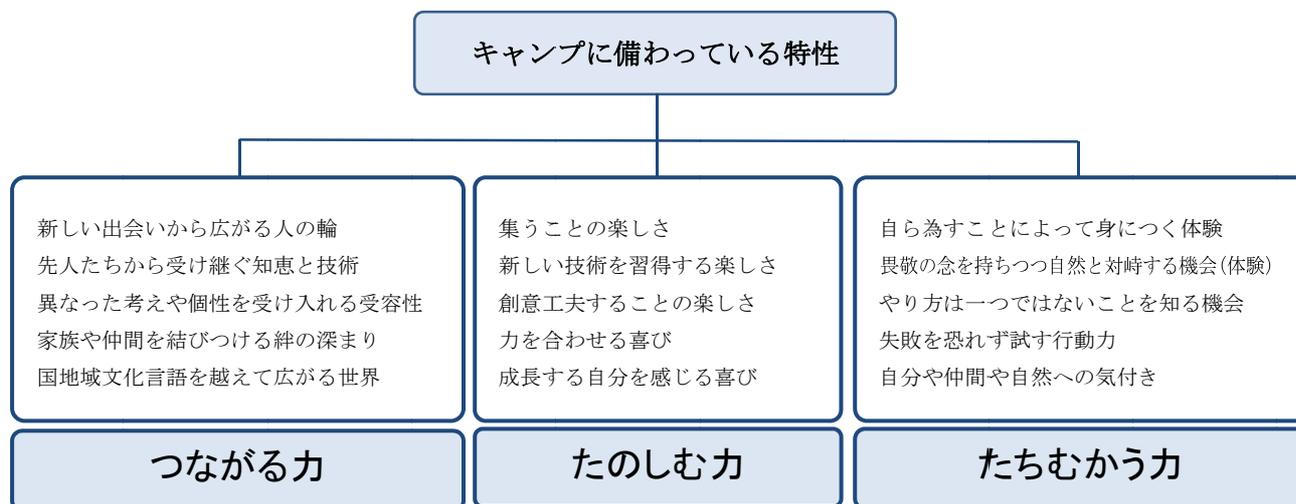
松田恵示氏（東京学芸大学副学長）は「チーム学校」構想の中で、「今の学校はあまりにも多くのもの（子どもたちの生活全般）を担い過ぎている」と述べられ、学校が自己完結をしないで多職種連携をする必要があることを提唱されている。これは子どもたちに「他者（知らない人）」との関係に依存する世界」とつながることで失敗してもOK（遊び）の世界を広げることが必要であり、子どもたちが知らない人や組織とつながるためには「ガイド」が必要であり、ガイドは内も外も良く知った人のことであると述べておられる。

これはまさに私たちが、「キャンプと人々をつなぐ」案内人（ガイド）として社会にキャンプの良さを広めるために、内（キャンプ）も外（人々＝参加者）も良く知った存在としてあることや多チャンネルの連携を推進するという展望と軌を一にした考えである。



「キャンプと人々をつなぐ」案内人(ガイド)とは

キャンプに備わっている特性を理解し、“キャンプ”を伝えることが出来る人のことです。



これらの“力”を社会の隅々まで届けていく取り組みを考えます。

キャンプを通してのアウトリーチの取り組み

キャンプは様々な可能性を秘めた宝の箱です。1861年に米国でこの箱が開けられてから150年以上の時が流れ、この間にキャンプの箱の中からは沢山の素敵なものが取り出されてきました。

キャンプは私たちにいつも何が大切で、どうすればその大切なものを取り出せるかを教えてくれます。キャンプの体験は個人的な貴重な経験であると同時に社会的な意味を含んで私たちを育ててくれます。キャンプで大切なものは私たちの日常生活でも大切にしなければならないものです。

日本キャンプ協会設立50周年を記念して実施したA OCC2016のメインテーマとなった「アウトリーチ 一手をさしのべるキャンプ」は以前から大切にしてきたけれど、今後も私たちが生きていく上で沢山の人々や様々なことがらに自分から積極的に関係を結んでいこうとする態度や考え方を表しているように思います。

時代が遷り、社会が変化し、キャンプを取り巻く環境がめまぐるしく変わっていく今、私たち自身も社会の変化に柔らかな発想でしなやかに対応していくことが求められています。私たちは「社会の隅々までキャンプを届けること」もアウトリーチと捉え、様々な取り組みを考えました。

2020年に向けたビジョン

アウトリーチ — 社会の隅々までキャンプを届けよう

<3つの宣言>

①私たちは、人と人、人と自然、人と社会をつなぐ

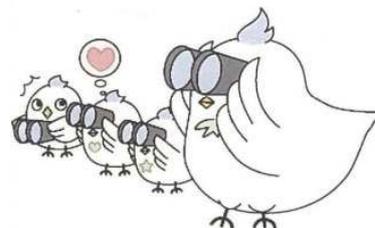
「**キャンプの案内人 (ガイド)**」を務めます。

②私たちは、「案内人」として

「**つながる力**」「**たのしむ力**」「**たちむかう力**」を実感できる

キャンプの展開に力を尽くします。

③私たちは、キャンプの発展のため、私たち自身の「**意識改革**」を行います。



アクション 1

指導者養成制度を活用した
「キャンプの案内人」の養成
に努めます。

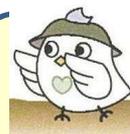
- キャンプインストラクター
養成数の維持
- 指導者養成カリキュラムの
改訂
- キャンプ知識・技術の伝承



アクション 2

「つながる力」「たのしむ力」
「たちむかう力」を実感でき
るキャンププランを提案し
ます。

- 次世代応援プラン
- 多チャンネル連携プラン
- 社会的課題対応プラン



アクション 3

社会の変化に対応して私たち
の意識改革に取り組みます。

- 自主、自立、そして成熟へ
- 中央発信重視から地域間
発信重視へ
- 都道府県協会と日本協会
の相互関係の堅持

3つのアクションを実行してビジョンの達成を目指します。

アクション1 指導者養成制度を活用した「キャンプの案内人」の養成に努めます。

キャンプインストラクター（CI）養成数の維持

キャンプの良さを広げていくためには、キャンパー一人ひとりがキャンプの楽しさや、同じ目標にむかって協力しながら皆で達成感を味わうことの素晴らしさを体験することがスタートです。日本キャンプ協会が養成するキャンプインストラクター養成は、キャンプの素晴らしさを体験する人を作り出す最初のアクションです。一人でも多くの人々がキャンプに触れ、キャンプの良さを知り、キャンプの案内人として次の人に伝える。一人の輪が二人、三人へと広がっていくために沢山のキャンプインストラクターを養成することが必要です。

最近のCI 養成人数の推移

年 度	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
養成人数	2,864 人	3,007 人	2,807 人	2,700 人	2,519 人

上記の表のようにCIの養成はここ数年、減少の傾向にあります。この原因は社会的要因（18歳人口の減少等）もあると思われませんが、もっと幅広い層へのCI資格取得の働き掛けが不足しているのではないかな等の反省もあるのです。従来とは違った団体に働きかけたり、今までとは違った広報や募集の方法等を工夫し、他団体とのコラボレーションを仕掛けるなど多チャンネルとの連携を積極的に図る必要があります。

■ キャンプインストラクター養成数の維持

□ 規程の見直し（課程認定団体規程の改訂－2017年6月の担当者会で改訂の説明）

指導者養成委員会からの提案⇒執行理事会での審議・承認⇒全課程認定団体への文書での周知
⇒2017年6月

□ 養成団体の拡大

（課程認定団体規程の改訂により、全国組織等の縛りをなくして拡大 ・46団体+150団体+α
年々5団体～10団体増）

□ 養成人数の維持

（新規養成2,500人を最低限の数値目標とする－新規団体よりの登録総数増年々50人～100人を目標）

年 度	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
養成人数	2,300 人	2,500 人	2,550 人	2,600 人	2,650 人

指導者養成カリキュラムの改訂

日本キャンプ協会の指導者養成制度は1975年に始まり、1981年に刊行された「キャンプ指導の手引き」によって本格的に養成が始まりました。その後、何度かの改訂が繰り返され、現在はキャンプディレクター1級、キャンプディレクター2級、キャンプインストラクターの3つの資格からなる指導者養成制度が行われています。

指導者養成はそれぞれの資格に必要なカリキュラム内容を学習することによって行われていま

すが、カリキュラムは時代の変化に柔軟に対応出来るものでなければなりません。従って、キャンプを取り巻く状況が変化している今日、カリキュラムの改訂を考慮すべきであると考えます。特に、多くのキャンプインストラクターを養成することを意識して、インストラクター養成のカリキュラム構成には配慮が必要であると考えます。

■指導者養成カリキュラムの改訂

□CI カリキュラム見直し

(キャンプのガイドとして、人の理解と技術の習得の大切さを押さえる) 2017年9月まで

□CI 時間数見直し

(一括型、分離型、ポイント制等についてドラスティックにかつ取得しやすくなるように)

2017年9月まで

□CI テキスト改訂

(シンプルで分かりやすい記述・組織キャンプの基礎を押さえながら、多様なキャンプを含む)

2017年9月まで

*2017年10月に全課程認定団体への文書で周知、また全国事務局担当者研修会で説明

キャンプ知識・技術の伝承

キャンプの案内人(ガイド)の養成のうち、キャンプの知識・技術の伝承は大切なことです。殊に長年に亘って先輩たちが作り上げてきた技術にはその土地独自のやり方や教え方があり、それが大切な財産であるものが沢山あります。そうしたものを次の世代に伝えていくこともキャンプの案内人(ガイド)の重要な役割です。

従来は、制度として整えられてはいるものの地域性が考慮されにくいことがらもあったことから、きちんと評価されない技術等がありましたが、制度のカスタマイズ(アレンジ)を可能にすることを推進し、地域に根差した技術・知識の伝承が確実に行われるようにする必要があります。

■キャンプ知識・技術の伝承

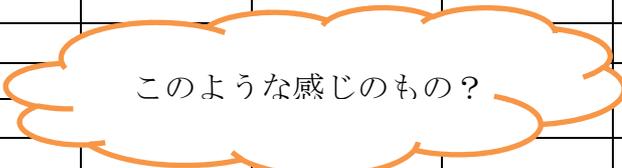
□「キャンプの達人」認定プログラムの開始(地域連携委員会等で内容の検討) 2017年度中

□整備(達人の定義・種目等の範囲・認定規程等の作成) 2017年度中

□定着(各都道府県協会への周知・実行ー全国事務局担当者研修会等での説明ー)2018年度より実施

*キャンプの達人認定(例)

項目	級・段	上・中・初	松・竹・梅	師・士	金・銀・銅
キャンプファイアー					
火 熾 し					
ロープワーク					
キャンプソング					
クラフト(木工)					
野外料理(芋煮会)					
野外料理(ガッツォボン)					
林業(木こり)					



アクション2

「つながる力」「たのしむ力」「たちむかう力」を実感できるキャンププランを提案します。

次世代応援プラン

現代社会では日々激しいスピードで変化が起こっています。それは技術力の進化を中心に惹き起こされ、新しい技術による新しい機器の出現によって私たちの生活習慣や価値観までが変化を余儀なくされることもあります。スピードが速いと言うことは、様々な判断に瞬発力が要求されるということであり、的確に今という時代の潮流を捉える情報や判断基準を持つことが求められます。従来からの価値観に裏付けられた活動が必ずしも安定した成果を期待できるとは言い難い時代となり、新しい方法論と価値観による企画によって活路を見出す時期が到来していると言えるのではないのでしょうか。

Learning by Doing の世界はむしろ新しいものへのチャレンジを後押しするべきです。致命的なミスに陥らないようケアしながら次世代の育ってくる環境を作り上げること、そして次の世代への橋渡しをしやすくすることが旧世代のつとめです。

■次世代応援プラン

- 各協会からの試行実施(既存または新規プログラムのプランニング・実施体制の若返りを意識)
 - *キャンプの持つ特性の再確認と特性を生かす方法論の新たな組み立て
- 本格実施(次世代グループの実施をサポートする体制を確保)
- 他府県協会へ拡大(成功事例の報告・発表をキャンプミーティング等で積極的に行い、各地の事情に合わせたカスタマイズを行いつつ拡大・定着化を目指す)

多チャンネル連携プラン

キャンプを行うためにはいろいろな人の力が合わさることが必要です。そして、現代のニーズに応えられるキャンプを構成するためには、キャンプを実際に運営出来るスキルに加えてキャンプの目的を達成するための専門的な最新の知識や技術が求められます。そのような技術や知識をキャンプ指導者が学ぶことは大切なことですが、より専門的で高い技術力を持った分野の人々や団体との連携によってより効果的なキャンプができるとしたら積極的に手をかしてもらいたいと考えます。そして、そうした異分野、異業種、異職種の人々との協働によって私たちの思考プロセスや行動様式に変化がもたらされ、新しいアイディアを生み出す契機となれば素晴らしいことです。また、私たちと連携することで異分野の方々のキャンプについての理解を深めてもらう機会となることも期待できます。

■多チャンネル連携プラン

- 3プランで各1事業試行
 - *例えば(異なる世界の人々と活動を共にするキャンプ)
 - 2018年度までに1試行 2019年度2試行 2020年度3試行
- 各協会が試行 ⇒ 各協会に広げる ⇒ 各協会で定着

*多チャンネル：キャンプ、野外活動、生涯スポーツ等の私たちが日常関係を持っている団体や個人というよりは少し枠を広げて一般企業、報道関係、行政、病院、神社仏閣等の関係者や団体との連携を形にする。

社会的課題対応プラン

私たちの生活している社会は日常的に様々な課題を抱えています。そして、キャンプがこの社会的課題の解決や緩和について担える部分も沢山あります。

これまでにキャンプに備わった特性を活用して、特別な配慮が必要な人々に向けたスペシャル・ニーズのキャンプが行われてきました。(ひきこもりや不登校のキャンプ、発達障がい児(者)のキャンプ、大きな災害や不慮の事故等によって大切な人を失った人々のキャンプ、難病を抱えている人々のキャンプ等々)しかし、社会の構造が進化し複雑化するにつれて更に新たな課題が生まれてくることになります。

私たちは常に社会の中に起こっていることに注意を向け、キャンプが出来ることを広く社会に向けて発信しながら取り組むべき課題に直面した場合に、速やかに対応できるよう準備をしておく必要があります。

そのためにも自己完結的にならず、キャンプ関係の団体や人々だけでなく違ったチャンネルを通してながら社会の動きに対応していかなければなりません。

■社会的課題対応プラン

同じ志を持つ人や団体(機関)と共に社会的課題にチャレンジする

社会的課題はそれなりに専門の知識や問題意識をもっていないと気づかないことが多いものです。まずはキャンプという活動を通して、社会貢献が出来る準備や頼まれたことを引き受けられる体制を作っておくことが必要です

- *日頃から、社会的課題やニーズに対して開かれた状態の組織であることを一般にアピールし続ける
- *他団体や外部からの情報を整理し、自分たちの組織でできることに取り組む準備をしておく
- *自己完結を優先しないで、困った時に相談・連絡のできるネットワークを構築しておく(隣県協会・ブロック・日本協会・行政・地域の関連団体等)

アクション3 社会の変化に対応して私たちの意識改革に取り組みます。

自主、自立、そして成熟へ

組織にとって対応すべき課題に直面した時、適切な判断をして次のステップに進むためには、自らが判断する基準や規範を持っているかどうか問われることとなります。

また、自立した組織であれば他団体との協働や協力関係を結ぶことが可能ですし、助成金の申請を行ったりすることで、キャンプを実施するために必要な資金を得ることが可能になります。

組織の成熟とは組織の大小ではなく、組織内の構成員の意見の交換がスムーズに行われているかとか多様な意見を調整出来ているかといったことを重視すべきでしょう。

みんなが意見を出しやすく、行事を行う時には気持ちよく役割を負いあうことのできる組織になるということは、他者を受け入れる、自分が変わる集団であるということではないでしょうか。

■自主、自立、そして成熟へ

- 持続可能な組織のあり方の検討 ⇒ 試行 ⇒ 定着
- 都道府県を代表するキャンプ団体としての情報や人材のリストを整備する
- NPO 法人化等により、自立した組織を体現することで各種助成金等の申請をしやすくする

中央発信重視から地域間発信重視へ

情報の伝達手段が多様化し、誰でもが容易に情報の受発信を行なえるようになった今日、新しいキャンプのアイデアや運営方法を公開することが非常に簡便にできるようになってきました。つまり誰もが情報源になることができるようになったということです。

このような時代では、中央から来る情報をありがたく受け取るだけということではなく、それぞれの現場で生み出された先進的な情報を直接的な方法で交換し合うことが有効であると考えられます。また、平準化された統一的な方法のみでなく、各地域の事情にあった方法や基準が適応されることの方が良い結果を生み出すに違いありません。

全国的なレベルで決めなくてはならないものと、地域の事情によりカスタマイズすべきものの区分けを行い、現場からの生きた情報をタイムリーに各地に送り届け、受信した現場はまたその地域の事情にあわせて改良するということが組織の自主・自立へもつながり成熟した組織の形成にもつながると思われまます。

■中央発信重視から地域間発信重視へ

- 各地域に相応しい協会運営方法の検討 ⇒ 試行 ⇒ 定着
- 2017 年度中に全ての都道府県協会公式ウェブサイト立ち上げ、タイムリーな情報発信をする
- ウェブ上に地域独自のアウトドア情報を掲載することによって、キャンプ協会以外の団体との情報交換をより多く行うよう心掛ける

都道府県協会と日本協会の相互関係の堅持

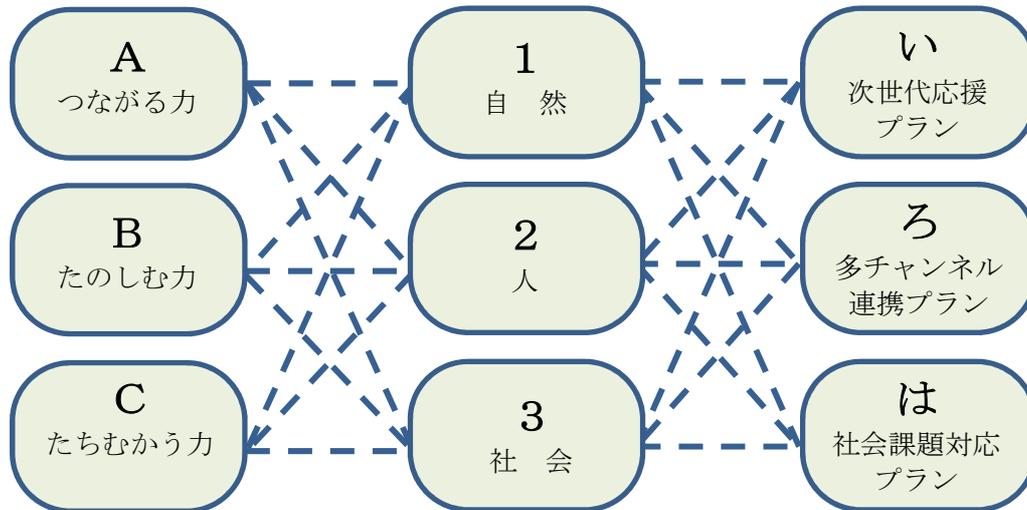
キャンプの普及・振興において「Camping for All」の基本的な考え方は都道府県キャンプ協会も日本キャンプ協会も同じです。

「社会の隅々までキャンプを届ける」という仕事は簡単な事とは思われませんが、それぞれのキャンプ協会が自らの持ち場をベースにしなが、相互の役割を認識し分担してその役割を果たしていくことでキャンプの推進役を務めていくことができればと思います。

■都道府県協会と日本協会の相互関係の堅持

- 各地域の持つポテンシャルや強みを意識しつつ、新しいキャンプを地域に届け続ける

アウトリーチ ～社会の隅々までキャンプを届けよう～ のアクションプラン例



次の世代を担う若者たちを応援しよう

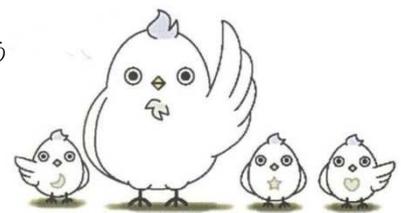
- A + 1 + い ➡ 農林漁業の活動に参画しよう
- A + 3 + い ➡ 30代40代が中心となって、地域の課題やニーズに応えるキャンプを実施しよう
- B + 2 + い ➡ 楽しく元気な仲間づくりをしよう
- B + 3 + い ➡ 地域の活動やお祭りに参加しよう
- C + 3 + い ➡ 支援（引きこもりや不登校など）の必要な若者たちのキャンプをつくらう

多くのチャンネルと連携しよう

- A + 1 + ろ ➡ 多様な視点で新しい自然を見つけよう
- A + 3 + ろ ➡ 異なる世界の人と活動を共にする機会を持つよう
- B + 1 + ろ ➡ 自然に関わる様々な団体と連携しよう
- B + 2 + ろ ➡ 世代を超えた人々とのキャンプを楽しもう
- C + 1 + ろ ➡ 自然災害に備えるキャンプを企画し実施しよう
- C + 2 + ろ ➡ 支えられるだけでなく、他者のために力を尽くそう

社会的な課題に対応しよう

- A + 1 + は ➡ 持続可能性のある生活を提案しよう
- A + 1 + は ➡ キャンプ婚活で行政の少子化対策に売り込もう
- A + 3 + は ➡ 自分たちの持つ知恵や技術を地域づくりに活かそう
- B + 2 + は ➡ シニア世代の元気な人々に新しいキャンプを届けよう
- C + 2 + は ➡ 同じ志を持つ人と共に社会的課題にチャレンジしよう
- C + 3 + は ➡ 生涯現役キャンプ！



「社会の隅々までキャンプを届けよう」のためのプロセスロード



〇ビジョン策定リリース

⇒具体化プロジェクトの立ち上げ

⇒ビジョンを反映した事業計画の策定

⇒モデルプランの企画・実施

⇒プランのステップアップ

⇒ビジョン検証

⇒ネクスト策定

アクション1

指導者養成制度
を活用した
キャンプの
「案内人」養成

キャンプインストラクター（CI）養成数の維持

□規定の見直し・養成団体の拡大 ⇒ 養成人数の維持

指導者養成カリキュラムの改訂

□αテキスト改訂 ⇒ αカリキュラム見直し ⇒ α時間数見直し

キャンプ知識・技術の伝承

□「キャンプの達人」認定プログラムの開始 ⇒ 整備 ⇒ 定着

アクション2

「つながる力」
「たのしむ力」
「たちむかう力」
を実感できる
キャンプ
プランの提案

次世代応援プラン

多チャンネル連携プラン

社会的課題対応プラン

□各協会からの試行実施 ⇒ 本格実施 ⇒ 他府県協会へ拡大

□3プランで各1事業試行 ⇒ 各2事業試行 ⇒ 各3事業試行

□各協会が試行 ⇒ 各協会に広げる ⇒ 各協会で定着

アクション3

社会の変化に
対応した
わたしたちの
意識改革の
取り組み

自主、自立、そして成熟へ

中央発信重視から地域間発信重視へ

都道府県協会と日本協会の相互関係の堅持

□持続可能な組織のあり方の検討 ⇒ 試行 ⇒ 定着

□各地域に相応しい協会運営方法の検討 ⇒ 試行 ⇒ 定着

ビジョン策定委員会

◎今井正裕 小森伸一 高見 彰 月橋春美 野口和行 引間紀江 (◎は委員長)

MEMO



NCAJ

National Camping Association of Japan

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504
Email:ncaj@camping.or.jp